うずらの

鶉野飛行場跡 戦争遺跡めぐり ガイドマップ

姫路海軍航空隊鶉野飛行場とは

第二次世界大戦が激化し始めた頃、パイロット養成を目的に昭和１８年に完成した旧日本海軍の飛行場。姫路海軍航空隊が開隊され、多くの若者が飛行機の操縦訓練を実施。また、滑走路の南西にあった川西航空機姫路製作所鶉野工場では、「紫電」「紫電改」など５００機あまりの戦闘機が組み立てられました。

レンタサイクル

南北約3kmにおよぶ鶉野飛行場跡の戦跡をめぐるなら、レンタサイクルが便利です。

soraかさい（加西市観光協会）	北条鉄道法華口駅（駅舎工房 モン・ファボリ）
営業時間 9:00～18:00	営業時間 10:00～16:00
定休日 毎月第2・第4月曜日	定休日 月曜日・金曜日（祝日の場合は変更あり。臨時休業あり）
住所 加西市鶉野町2274-11	住所 加西市東笠原町240-5
電話 0790-49-8200	電話 0790-20-7368
料金 1,100円～	料金 500円（電動）

❶加西市地域活性化拠点施設「soraかさい」

鶉野飛行場に関連する展示（歴史や飛行機の実物大模型など）、物販・飲食、観光案内、イベントなど各種交流の機能を有しています。

❷鶉野平和祈念の碑苑

戦争のない平和が永遠に続くことを願い、平成11年に、元隊員やご遺族、地元有志などにより建立されました。

❸鶉野飛行場滑走路跡

当時のままの滑走路跡が残る、全国でも貴重な戦争遺跡です。歩きやすく、散策道も整備されています。周辺には防空壕なども点在しています。

❹巨大防空壕跡（自力発電所跡）

長さ14.5m、幅5m、高さ5mの空間を持つ基地内最大のコンクリート製防空壕です。防空壕内では当時の特攻隊員たちが出撃前に残した遺書を映像で公開しています。

❺対空機銃座跡

攻撃してくる飛行機を迎え撃つための機銃座で、1分間に230発の弾を5,000mまで発射できたそうです。地下室も含め、完全な状態で残っています。

❻門柱・衛兵詰所跡

姫路海軍航空隊への入り口がありました。門柱、衛兵詰所、訪問者との面会所をイメージした休憩所が整備され、工事の際に発見された門柱基礎が展示されています。

❼防空壕跡

鶉野飛行場跡周辺には、コンクリート製や素掘の防空壕が点在しています。

❽爆弾庫跡

砲弾、爆弾、機銃弾などが格納されていたといわれています。コンクリートの厚さは1mもあり、他のコンクリート製防空壕の2倍以上の厚みがあります。

❾北条鉄道 法華口駅（ほっけぐち）

姫路海軍航空隊の最寄駅として栄えた駅です。現在は、懐かしい外観の駅舎内で、パンの販売やレンタサイクルの受付などを行う、加西市観光の主要なポイントです。国登録有形文化財。

かさい観光Navi
加西の観光情報が盛りだくさん。加西市観光協会のウェブサイトです。

加西市観光ガイド
ガイドを事前に予約すれば、戦争遺跡の内部見学ができます。

加西市歴史遺産群散策ナビ「REKINAVI」
加西市の公式散策アプリ。歴史遺産の紹介やマップが見られます。

加西市地域活性化拠点施設「soraかさい」
「soraかさい」のウェブサイトです。施設に関する情報はこちらをご覧ください。

発行年月 令和4年8月

発行 加西市
電話 0790-42-1110
〒675-2395
兵庫県加西市北条町横尾1000番地

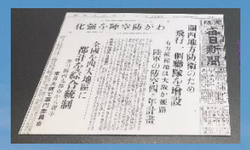
「soraかさい」展示概要

鶉野の空がつなぐものがたり

鶉野飛行場の建設から終戦まで約３年。その間のできごとを紹介します。
一つひとつが鶉野飛行場の歴史であり、飛行機にかけた夢、戦争によって失われた尊い生命、現在にもつながる技術などのものがたりです。

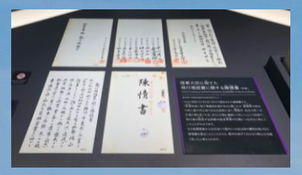
- 01　物語｜飛行場の建設

約２７４万㎡という広大な飛行場とその関連施設は、１年たらずで完成しました。建設工事では加西郡や近隣の地域からの勤労奉仕隊、朝鮮半島等から集まった労働者など、毎日、千人を超える人びとが働いたそうです。



◀ 陸軍の航空防空緊急充備計画を伝える新聞記事が、陳情書提出のきっかけとなったそうです。この時は尾上村（現加古川市）に飛行場が完成しました。

陸軍大臣に宛てた飛行場設置に関する陳情書には「商工業の中心地に近く、姫路市などへの交通の便も良いため、ぜひこの地に建設してほしい」といった内容が書かれています。▶



◀今も残るコンクリート製滑走路の材料には、長（現加西市西長町）の石山で採れた凝灰岩の長石と加東郡（現加東市）の加古川で採取された川原石などが使われています。

- 02　記憶｜航空隊の開隊

１９４３（昭和１８）年１０月、姫路海軍航空隊が開隊されると、全国から飛行機操縦訓練のため、練習生が集められました。

厳しい訓練に明け暮れる練習生の楽しみは、日曜日に列車に乗って市街地の北条などに行き、航空隊が斡旋してくれた下宿で過ごすひとときでした。下宿先ではごちそうが用意されたり、寝ころんで雑誌を読んだり、家族と面会したりすることができました。

海軍手箱 ▲
下士官や兵卒に貸与される個人用の小箱で、中には文房具などの日用品が納められていました。

- 03　生命｜特攻隊の編成

１９４４（昭和１９）年、マリアナ沖海戦やレイテ沖海戦で大敗するなど戦況悪化の中、海軍では神風特別攻撃隊が編成され、航空機による体当たり攻撃（特攻）がはじまりました。
１９４５（昭和２０）年２月、軍令部、連合艦隊の意向により沖縄方面での作戦主体は特攻となり、姫路海軍航空隊にも「白鷺隊」が編成されました。白鷺隊員は同年３月、攻撃隊の待機基地である大分県の宇佐へ、さらに出撃基地である鹿児島県の串良へ飛び立ちました。
沖縄方面における航空特別攻撃機数は１,９００機余り。命中率は約１３％といわれています。海軍航空隊の特攻戦没者は２,５０７名、そのうち沖縄での作戦では２,０５５名にのぼります。

◀ 出撃直前の写真
八重桜の枝を渡される特攻隊員

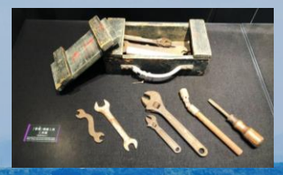
落下傘の寄せ書きは、第一護皇白鷺隊が出撃した５日後の４月１１日、次の出撃命令を待つ「白鷺隊」の隊員たちが、串良基地で書いた絶筆です。
姫路海軍航空隊の教官だった少尉が、串良基地に移動してきたとき、墨と筆を持参し、教え子である特攻隊員に書いてもらったものです。特攻出撃時には不要になってしまう落下傘に、遺文と名前を記したのは２８名でした。▼

- 04　飛翔｜戦闘機の組立

川西航空機姫路製作所の近くには試験飛行をするための飛行場がなかったため、飛行場のある鶉野に組立工場が建設されました。
姫路製作所で製造された「紫電」「紫電改」は一旦３分割され、３頭立ての馬車で鶉野に運ばれました。トラックや燃料の不足もありましたが、車の振動による機体の損傷を防ぐために、搬送にはゆっくり運べる馬車が使われました。
鶉野で再び組み立てられた機体は、今もその跡が残るコンクリート製滑走路から飛び立って試験飛行が行われていました。
鶉野工場では川西航空機の工員や養成工のほか、地元の女学校や工業学校等の学徒も多数動員されていました。

◀ 紫電改の部品
紫電主輪（写真中央）や
紫電改防弾ガラス（写真左下）

▼ 紫電フィレット



◀「紫電」整備工具 工具箱

▼ 設計資料集　複製

▼ 筆記帳　複製

当時の日本海軍新鋭機だった「紫電改」を開発・製造した技術は現在、海上自衛隊が運用する救難飛行艇にも受け継がれています。

- 05　継承

第二次世界大戦の記憶は急速に薄れつつあります。
地域活性化拠点施設「soraかさい」では、当時の鶉野飛行場の事実を伝える貴重な証言映像をご覧いただけます。

KASAI UZURANO Sora かさい
兵庫県加西市鶉野町2274-11
TEL：0790-49-8100　FAX：0790-49-0710
開館時間　9:00-18:00
休館日　　毎月第2・4月曜日、12月29日～1月3日

技術ゾーン

滑走路の南西にあった川西航空機姫路製作所鶉野工場で組み立てられていた戦闘機「紫電改」と、パイロット養成に使用され、特攻機としても使われた「九七式艦上攻撃機」の実物大模型を解説とともに展示しています。

歴史ゾーン

姫路海軍航空隊の開隊から終戦までを4編のストーリー映像として、紹介しています。映像とともに鶉野に関する貴重な写真や図面、実物資料をご覧ください。

【展示協力　上谷 昭夫氏】

地域活性化拠点施設「soraかさい」では、鶉野飛行場に関連する資料や解説を「技術」と「歴史」の２つのゾーンで展示しています。また、加西市の特産物やオリジナルグッズが豊富なショップや、軽食やドリンクが充実したカフェも併設しています。